

ニュージーランドは泥棒天国？

2016年4月
在オークランド総領事館

2016年3月7日から5日間、NZ HERALD 紙は「いかに盗難被害を防ぐか」と題するスペシャルシリーズを掲載しました。

このシリーズではニュージーランド全体で住居侵入による盗難事件が、昨年1年間で164件/日も発生しているとして、被害状況・警察による捜査・犯人の声などを詳細にリポートしています。ここでは、このシリーズの概要をお伝えいたします。

1. NZ HERALD 紙の調査によると、空き巣を主とする盗難事件の解決率は2015年史上初めて一桁台の9.3%まで下がり、ニュージーランド全土では59,845件（一日当たり164件）が未解決であった。
2. 盗難被害発生件数の上位は次の通り。
オークランド — 34,555件
クライストチャーチ — 8,824件
ハミルトン — 5,232件
以下、ロトルア、ファンガレイ、ヘイスティングス、ウエリントンの順に続く。
オークランドの中でも南オークランドは被害件数が多く、マヌカウショッピングモール周辺の商業地域は1日当たり75件、タカニニサウス周辺部の住宅街は1日当たり68件であった。
3. 被害の実例は次のようなものがある。
 - ・バールのようなものでドアをこじ開けられて、パソコンなどを盗難にあった。
 - ・2階建ての家で、2階にいる間に1階に侵入された。
 - ・ドアや窓の鍵が開いていないかチェックしているような不審な人を週一回程度見かける。
4. 同紙の調査によれば、貧困層の多い地域がより盗難被害が多いとされているが、その他の地区でも仕事などで日中留守にしているような家が狙われることもあり、富裕層の住む地区などではより周到に計画された盗難被害が発生している。
また、警察関係者の話によると、ほとんどの空き巣被害は短時間で行われ、目撃者もなく物的証拠も少ない。そこで、ニュージーランド警察は、盗難被害の防止、捜査、解決に努めてはいるが、よりその防止に力を入れている。
5. 警察では具体的な住居の防犯対策として次を呼びかけている。
 - ・ドアや窓は安全性の高い鍵で常に施錠し、貴重品も鍵のかかるところに保管する
 - ・アラームやセンサーライトなどを設置し、表示板やシールでそれが分かるようにする。賃貸物件であれば、アラームなどの設置を家主に相談する。アラーム設置費\$600~700、

警備会社による監視サービス \$30/月が相場のようなのである。

- ・ 隣人と顔見知りになり、防犯のための相互監視グループがあればそのグループに参加するか、新たに始める。隣人がどのような車に乗っていて、何時頃出かけて何時ごろ帰宅するかを知り、休暇などで家を空ける際には郵便受けから郵便物を取ってもらい、訪問者などがいないか家を見てもらう。
- ・ 外出中であることが分かるようにしない。
- ・ 鍵を目につきやすい所には置かない。
- ・ 貴重品には記名・刻印など目印をつけるか、写真やビデオを取っておく。電化製品などは、その製造番号を snap.org.nz に登録する（このサイトに登録することで警察の捜査がスムーズになる場合がある）。
- ・ 全ての部屋のカーテンを閉めないようにするなど、在宅中であるように見えるようにする
- ・ 犬を飼う。または何か音が出るようなものを設置する。
- ・ デッドロックを付けドアが開かないようにすることで、仮に泥棒が入っても中にある家財を持ち出せないようにする。

以上